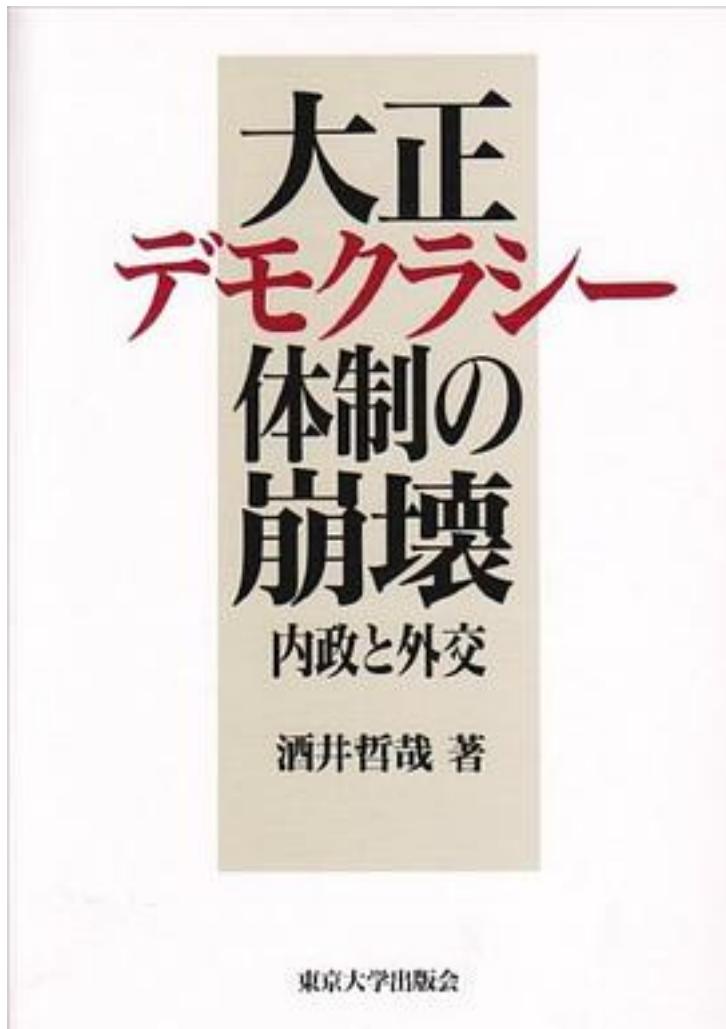


大正デモクラシ一体制の崩壊—内政と外交



[大正デモクラシ一体制の崩壊—内政と外交 下载链接1](#)

著者:酒井 哲哉

出版者:東京大学出版会

出版时间:1992-1

装帧:ハードカバー

isbn:9784130360623

満州事変に始まる大正デモクラシ一体制の崩壊過程を、内政と外交の相互関連性に着

目しながら分析することともに、各政治主体の指導のあり方を検討することで次第に狭隘化しつつも存在した「平和と民主主義」の可能性を問い合わせる.

作者介绍:

酒井/哲哉

東京大学大学院総合文化研究科教授。日本政治史(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目录: 主要目次

凡例

はじめに

第一部 大正デモクラシ一体制崩壊期の内政と外交

序章 課題と方法

第一章 危機の発生とその衝撃

第二章 危機の構造化とその限界

第三章 危機の現出と危機管理

第二部 日本外交におけるソ連要因 (1923-1937)

序章 課題と方法

第一章 ワシントン体制下におけるソ連要因

第二章 満州事変の勃発と日ソ関係の同様

第三章 「防共的国際協調主義」とその帰結

あとがき

索引

• • • • • (收起)

[大正デモクラシ一体制の崩壊—内政と外交](#) [下载链接1](#)

标签

日本史

日本政治

政治史

比较政治

日语

日本

战略

历史

评论

将军事、内政、外交诸方面贯通，力图得到整体的理解，也注意提示细节。主张大正体制相当稳固，因此军部只有从制造外部事件来动摇体制，而对此体制总是存在很多均衡点，存在阻止战争的可能性。不过从论述可以看到，这些可能性都依存于偶然的人事与力量关系，从而体制呈现“每天崩坏一点点”的景象。

军部是体制的颠覆者，文官是宪政常道德维护者。这种论点现在大概拥护的人已经不多了吧。在2.26事变之前，认为或者赞成政党政府是明治宪法制度下“合理”体制的政治精英就已经不多了

[大正デモクラシ一体制の崩壊—内政と外交](#) [下载链接1](#)

书评

[大正デモクラシ一体制の崩壊—内政と外交](#) [下载链接1](#)